

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report

# 7

2018 No.766

## 3 はじめの言葉

## 4 国家の文書情報紛失

### 危うい日本の情報処理

田原文夫

### 文書紛失

国会では、政府のあるべき文書情報が紛失するという事件が相次いでいる。公開を国是とする情報社会にあって、あってはならない事態だ。意図的な隠蔽工作が背景にあることは国民のほとんどが気が付いている。懲りない面々の所業である。

## 10 情報社会を考える その94

### 情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

### グループ最弱チームの決勝T進出

束の間の喜びかもしれないが、サッカー W 杯で日本チームが予選リーグを突破、決勝トーナメントに進出した。日本中が沸いた。戦前、一勝もできずに予選敗退だろうというのが、専門家のほぼ一致した観測／見通しだった。それも無理はない。FIFA ランキングで絶対的下位に位置する日本チームだったからだ。一部の観測筋が、ひたすら身最良一辺倒の希望的期待として、ほとんどヤケクソ的に、予選突破論、ベスト8入りを力説していたが、それも限りなく自虐性を漂わせて響いて聞こえた。予選敗退は、ほとんどの国民が予想するところだった。

## 12 デジタルガバメント DG6

### デジタル政府の展開 その6

水田 浩

デジタル化は人々の生活の質を向上させる。2018年1月16日に日本政府もデジタルガバメント実行計画をeガバメント閣僚会議で決定した。この計画は、28年1月16日から2023年3月31日までの計画である。2018年上半期を目途に各府省庁における中長期の戦略的な計画を策定をする。電子政府はICTを使って政府側から国民に行政サービスをより早く、より安く、より良くするのが目的だがデジタルガバメントは顧客(国民、企業、職員)側から政府の行政サービスを探し易く、繋がりやすく、何時でも何処からでも誰でも使えることを目的としている。

## 19 連載 アーキテクチャ論 (87)

### ArchiMateによるビジネスモデリング

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 大学院 情報学研究科 教授

エンタープライズアーキテクチャを図式化する ArchiMate[2,3]では、ゴールモデルを記述するモチベーション要素とビジネスプロセスを記述するビジネスアーキテクチャ要素が

ある。しかし、これらの要素をどのように活用するかについては明確ではなかった。

本稿では、事例に対してモチベーション要素によるビジネスゴール分析とビジネスアーキテクチャ要素によるビジネスプロセス分析により、両者を統合するビジネスモデリング手法を明らかにする。まず、ゴールモデルを ArchiMate のモチベーション図で記述する方法について述べる。次いで、ArchiMate でビジネスアーキテクチャを記述する方法を説明する。さらに、同じ例題に対してモチベーション図とビジネスアーキテクチャ図を作成できることを具体的に紹介する。

## 2 9 連載 情報システム考

### 企業情報システムの変遷と行方 第 10 回 Dr.ベスト

昨今、クラウド、ビッグデータ、AIなどをベースとした情報システムが社会的規模で普及する中、それらのシステムを各企業規模すなわち自社（社員）レベルでコントロールできない状況へと進展している。換言すれば、「情報システムのコントロール不可、すなわちアウトソーシング依存現象」である。企業にとって情報システムは、企業の神経／血液そのものであり、コンサルタントや弁護士に限定された範囲での業務を委託したり、物流や警備をアウトソーシングするような対象のものではないはずである。

## 3 7 IT 新時代とパラダイム・シフト

### 第 104 回 大阪北部地震で表面化した 災害に弱い通信電力網対策をどうすべきか 根本忠明

大阪北部地震は通勤時間帯の交通網を混乱に陥れ、電話・携帯電話も通じにくい状況に陥れた。東日本大震災（2011年）以来、日本の地震は世界から注目を集めている。2017年に、政府の地震対策は「予知から防災へ」と大転換し、2020年には東京オリンピック開催が控えている。ライフラインとなる通信電力網の確保には、世界に先駆けた災害に強い通信電力網の再構築が不可欠である。東日本大震災以来の地震・災害対策の数々の実験プロジェクトの成果を、実践に生かす時が来ている。机上のプランや実験プロジェクトで済ます姿勢は、終わりにすべきとあってよい。

## 4 1 続インテリジェンスへのいざない 101

### 情報の真偽 民信を得た代表かと疑う時 今井 武

国民の支持を得ていない首脳ばかりではないか。そう思えるような外交現場情報ばかりである。外交とは、各国の利益主張、せめぎ合いである。しかし国民レベル同士では理解しがたいものが多く含まれる。外交現場から伝えられる情報の真偽が疑われるのは、そんな時である。同時に、国民の支持を得て、国家を代表している者同士かと疑うのも、そんな時である。

## 4 4 新連載 語録（ごろく） 3 0 すぎやまちヒロ

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

## CR選書

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,800円＋税 送料(〒300)  
A5版 289頁

石井義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 EHCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできない
第二章 データベースとデータウェアハウスの	データウェアハウスサポート
創設点	第八章 データウェアハウスの構築と
第三章 OLAP用のデータウェアハウス	データ移行ツール
第四章 リレーショナル・モデルとホスト・モデル	第九章 データウェアハウスの利用と
リレーショナル・モデル	エンドユーザー・ツール
第五章 正統化の両面点とデータウェアハウス	第十章 データウェアハウスの保守と
第六章 データウェアハウス管理システム	オートメーション

付 録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEHCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Grid群上によるOLAPプロダクトの	第九章 多次元データベースとアプリケーション
評価ツール	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第四章 分析処理の歴史	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	付 録
第六章 データウェアハウスとOLAP	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 199頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意思決定
第二章 消費者行動の心理的決定要素	第五章 消費者行動のセグメント
第三章 消費者行動の社会的決定要素	第六章 人間であること(人間の行動プロセス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

shim 研究誌情報店  
**インターネットセキュリティの**  
**落とし穴**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 199頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
ais情報セキュリティ・マシナリ研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 海外の事例から学ぶセキュリティの重要性	第十一章 高度なセキュリティ対策とセキュリティ
第二章 最新のセキュリティ脅威とセキュリティ	第十二章 メールセキュリティ
第三章 認知されるセキュリティ脅威の基本的知識	第十三章 企業セキュリティの現状と今後の展望
第四章 最新のセキュリティ脅威とセキュリティ	第十四章 最新のインターネットセキュリティ脅威とセキュリティ
第五章 最新のセキュリティ脅威とセキュリティ	第十五章 最新のインターネットセキュリティ脅威とセキュリティ
第六章 最新のセキュリティ脅威とセキュリティ	第十六章 最新のインターネットセキュリティ脅威とセキュリティ
第七章 最新のセキュリティ脅威とセキュリティ	第十七章 最新のインターネットセキュリティ脅威とセキュリティ
第八章 最新のセキュリティ脅威とセキュリティ	第十八章 最新のインターネットセキュリティ脅威とセキュリティ
第九章 最新のセキュリティ脅威とセキュリティ	第十九章 最新のインターネットセキュリティ脅威とセキュリティ
第十章 最新のセキュリティ脅威とセキュリティ	第二十章 最新のインターネットセキュリティ脅威とセキュリティ

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の**  
**情報システム革新**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 213頁

高田 順重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム設計の現状と今後の課題	第五章 情報システム革新の推進
第二章 情報システム設計の現状と今後の課題	第六章 情報システム革新の推進
第三章 情報システム設計の現状と今後の課題	第七章 情報システム革新の推進
第四章 トップ主導の情報システム革新	第八章 情報システム革新の推進

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 4,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 213頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二章 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの構造と解法	第三章 計量モデルの解法
第二章 計量モデルの構造と解法	第四章 計量モデルの解法
第三章 計量モデルの構造と解法	第五章 計量モデルの解法
第四章 計量モデルの構造と解法	第六章 計量モデルの解法
第五章 計量モデルの構造と解法	第七章 計量モデルの解法
第六章 計量モデルの構造と解法	第八章 スパース

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**『いざ！というときの得広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,400円＋税 送料(〒300)  
A5版 200頁

加藤洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売主も企業役員
■ ニュースリリースは東方向優先	■ 守るも求めるも広報が窓口
■ 広報媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例集」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とよく付き合う十六の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー  
—IBM社会に挑んだ国際情報システム作りの物語—

定価 本体 1,800円＋税 送料(〒300)  
A5版 200頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本製子法の思い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米国チーム編組の軌跡
第三章 新システムへの働き	第十三章 新システム編組
第四章 WDCに向けて	第十四章 米国チーム編組と新たな編組
第五章 F&C、IBM競争	第十五章 国際チーム編組とリンクアップ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本製子法の本質と国際化
第八章 米国チーム立ち上げの証	第十八章 国際システムとのデータ交換の課題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 国際編組の一日、夜、朝、直後の苦しみ
第十章 米国チーム、新たな三人編組	第二十章 国際編組の二 安定稼働と北米センター稼働

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)